

中山青礼 捨児一竹内寿風 噫八甲田山一岩
崎竜風 吉野落一本橋錦風 壽陽江(上)一野口
嶮水 同(下)一福島脹水 城山一太閤英子 滝
口入道一高田登水 筑摩川一杉山雅俊 実盛
一山下晴楓。

各流派琵琶合同秋季演奏大会

十一月十四日(日)昼京都東山仁王門の本妙寺
本堂で始めての試みとして京都琵琶協会と錦
心流一水会京都支部の共催で開催された。
いつもの常連のほかに天候不良で行楽の足を
うばわれた聴客などがどっと詰めかけて静聴
し広い会場も満員に近い盛況で薩摩、錦心流、
筑前各流派琵琶の妙味を満喫していた。
(演奏者と曲目) 牧南水一西郷隆盛 山岡
旭清一乃木将軍 田中敷水一巖流島 植村真
水一茨木 荒木旭媛一石田三成 田中駒水一常
陸丸 平井春嶺一吉野落(二) 梅原旭濤一伽羅
の兜 馬場鴨水一紅葉狩 木下皇水一竜の口
早川幾水一本能寺 矢吹旭美津一井伊大老。
このあと関係者一堂に集り乾盃、散会した。

薩摩琵琶鶴彦会秋季演奏大会

十一月二十八日(日)昼、主催小野鶴彦氏。会
員の外関口竜城、吉田旭明、山本鶴声の三氏
ゲスト出演 (次号詳報)

薩筑琵琶三つ和会演奏会

十一月二十八日(日)昼京都東山安井金比羅会
館。(次号詳報)

高橋蘇水氏函館市文化賞受賞

六十年間琵琶詩吟の普及振興に貢献し志想
善導に寄与した功績により十一月三日市民会
館に於て賞状と賞金十万円、副賞プロンズ像
が市長から贈られた。全琵琶詩吟人の名に於

てお祝い申し上げる。

琵琶ラヂオ放送

一、十月十八日(月)午後八時NHK第一ラヂオ、
平曲「扇の的」井野川幸次氏外二人。
一、十月二十一日(木)午後五時NHK・F・M、
「川中島懐古」平山真佐子女士。
一、十月二十四日(日)午後二時NHK第一ラヂ
オ「邦楽鑑賞会」琵琶をきく」金田一春
彦氏解説。経正一田中旭嶺、壇の浦一鶴田
錦史、曲垣平九郎一故水藤錦樓。(録音)

松本旭柳女士十月十五日朝心不全のため急
逝、享年七十四。大正八年伊識旭風、高田旭
邦両師に師事し戦後橋本宗々家の指導を受け
多数の子弟を育成し法一院大師範として橋会
の重鎮であった。謹んで哀悼す。

小山田實水氏 十月二十三日心不全のため
急逝、享年七十五。大正七年榎本芝水師に師
事し弾法を永井鶴嶺師につき奥儀を極め錦心
流一水会々長として二十一年間に亘り全国数十
支部の運営に当り今日に至った温厚懇実の君
子でその功績は大きい。謹んで哀悼す。

予告

○山崎旭萃一門温習会 十二月三日(金)昼高
槻ボーリング場二階ホール。(非公開)
○京都琵琶協会十二月茶話会 十二月五日
(日)午後一時会員古谷寛水氏宅(向日市寺戸
町二枚田四、電話(〇七五)九二一七七八
九四番。阪急東向日町駅下車すぐ。)
○各流派合同義士祭演奏会 十二月十二日
(日)正午京都東山松原安井金比羅宮会館。主
催京都琵琶協会。

あとかぎ

月日のたつのはおそいようで早く
今年もあと一ヶ月で終らんとし又一
ッ輪を重ねると思うと有難いやら淋
しいやらで勿体ない話だが老翁の筆
はどもならん、来年は大いに若返って若い人
達に負けぬよう頑張ろう。琵琶も年を追って
復興しつゝあるは嬉しいが戦前の事を思う
と未だ未だで前途遠しの感を抱かざるを得な
い。今日の急務は若い人の育成にあり伝統芸
能の首位にある琵琶を何としても絶やさぬ
ようにしなければならぬ。それには昔のよう
に国文学を重視しない現代の教育では今の琵琶
歌謡の文語体やカケ言葉など何を云って
いるのか解らぬという若い人が多い。この意味
に於て近時漸く着目されかけた現代語の琵琶
歌を新作することも発展策の一つの方法とし
て重要ではあるまいか。世の識者の協力を仰
ぎたいものである。●本号は秋の好季に各地で
催された演奏会やその他悲喜交々の報道が山
積して貴重な二、三の御寄稿が載せられな
かった、執筆者の御好意に反したことを深くお
詫する。●例年の通り正月の年賀交礼の御申
込みを精々沢山且つお早く御願ひ申上げる。
これによって絃友同好者相互の健康を祝し合
いたい、なお郵便の値上りでも「謹賀新年」の
葉書はこれで事足れりと解釈して省略したい
と思う。●どうぞよいお年をお迎え下さい。

昭和五十一年十二月一日発行(非売品)
編集者 植村 真水
発行所 京 絃 社
〒569 高槻市津之江北町一ノノ二三
電話(〇七二六)七三六〇五一番

琵琶 機関紙

京

絃

第二六九号 京 絃 社

薩摩琵琶とその周辺(九)

薩英戦争の結末と反省 II 若松にて愛弟の墓に詣る

II 東郷一家の悲劇 II 晩年の自適と府中市の東郷寺

東京 坂本 錦 道

この薩英戦争は史家によって、敗れたとい
う人と、五分五分という二説があるが、何れ
にしても二六〇年も鎖国の中に情眼を食ひ
一遽に開国文明の脚光を浴びて、日本の一藩
である薩摩藩が英艦隊と一戦を交え、またあ
の長州が英米仏蘭の連合艦隊に戦を挑むこと
は或は暴挙かも知れないが、勝敗は別として
壮士の意気や軒昂たるものがある。

こうした事件のあと、フランスは幕府にテ
コ入れをするに反し、薩摩藩は大久保利道、
岩下万平を交渉委員とし、二万五千ポンドを
幕府の立替払いとして解決したが、一言に據
裏といっても戦って見て始めてその困難さを
体験した。それから英側が、幕府が内治外交
ともに万策つきフラフラ腰の幕府の命脈す
でに風前の灯と見てとって、薩長に対する風当
りは至極密月の間柄となつて来た。

さて茲で、英艦隊と砲戦を交え実戦の活教
訓を得た薩藩は、海軍整備の緊急をさと
てお祝い申し上げる。

英国に対して軍艦の購入や武器に便宜を得る
ようになる。それから海軍開成所を設け、ま
た数名の藩士を幕府の海軍操練所に入塾せし
める外、慶応元年町田民部以下十五名を歐洲
に派遣する。同二年海軍局の設立となり、東
郷家より三子壯九郎、四子平八郎、末子四郎
左衛門の三兄弟が海軍局に入る。

こゝまでは東郷家も安泰の一路であったが、
これより一家に不幸が襲いかかる。末子四郎
左衛門は戊辰戦争で官軍に従つて所々に転戦、
会津若松の攻撃で重傷を負い、それが原因で
戦死する(時に十七才)。

それより後の話である。大正期に元帥は東
宮殿下のお供をして東北方面にまいった際若
松に一泊した。同市の融通寺には愛弟四郎左
衛門の墓があるので殿下より暫時のお暇を頂
き、小笠原子爵をつれて墓参された。十七才
少年の身をもって皇軍に従ひ遠く奥羽の野に
転戦、不幸にも異郷に骨を埋めた。もとより

武士の慣いといひながら、四十年ぶりに愛弟
の墓に香華を捧げ、暫し合掌する元帥の姿を
見た小笠原中将は、骨肉の霊を弔り元帥の後
る姿を拝して、流れる涙を如何ともすること
が出来なかつたという。

話をまた明治の初年に戻す。明治五年元帥
二十五才の時である。同僚十一名と共に英国
に海軍修業のため留学を命ぜられた。そして
帰朝したのは同十一年で約八年に亘る長期で
あった。これは留学中、日本政府より英国に
発注してあった軍艦比叡、扶桑、金剛の竣工
を待つてその回航を仰せつけられていた関係
で、元帥は比較に乗り込み無事帰朝、間もな
く海軍中尉に任ぜられた。

さて元帥の留学中にほつ発した西南の役で
ある。当時留学中の学生数名の薩藩出身者は、
この報を聞くや一斉に帰国してしまつた。云
う迄もなく恩義を深く感ずる西郷軍に投ずる
ためである。この時東郷青年は、右せんか左
せんか一応は迷いましたが、日頃冷静な東郷
は郷里に如何なる異変があるかと、今日の自
分は陛下の御命令で重大な任務についている
一片の私情より一身を左右することは断じて
許されぬ、こうした信念の下に決して一身
を誤ることはなかつた。

末弟の死と、更に東郷一家の不幸は続く。
長男四郎兵衛、三男壯九郎両人は西郷軍に投
じ、壯九郎は城山に於て壮烈な戦死を遂げ、
長男四郎兵衛は重傷のまま存命はしたものの、
大隅の国分という所で死んでしまった。元帥

の兄弟は六人で長女、次男は夭折し、残る三人は成辰戦争、西南の役で散華、あとは只平八郎元帥一人のみとなってしまった。

元帥は功成り名遂げて老年を迎え、公職も追々辞退して悠々自適の生活に入られる頃(大正の中期)、都下府中市清水が丘(拙宅の近く)に五千坪の山林を持っていられた。その頃この辺は人家もなく、この段上より南を望めば眼下に多摩の清流、その南面は神奈川県、梶林の続く武蔵野である。元帥は日曜を利し都塵を避けてお孫さん達を連れ、御自分で接木した栗や柿の味を楽しみ、春には筍狩り、一軒の番人小屋はあれど別荘などとはおよそ別な感覚で、ガラリと戸を開けると土間、純然たる百姓家であらうと東郷さんらしい別荘である。元帥の亡くなられた後、東郷会の方々の浄財もて立派な東郷寺が建立された。

この東郷寺のある事は余りに知られていない。私は小田原国尊先生の生前にこのお寺の話をした時、先生は

東郷さんは私の郷里が生んだ偉人である。琵琶歌の中に乃木さんの歌は沢山あるが、東郷さんの歌は非常に少ない、私も「聖将東郷元帥」を作詞してあるので、そのお寺に案内して貰って御霊前では是非これを演奏させて頂きたい。

と申されていたが、残念ながら小田原先生も亡くなられた。私は先生御生前の念願を継いで、明春元帥の御命日に之を實行したいと思っている。

(訂正) 一京絃九月号中段十四行目鉛字は鉛玉、下段七行目海音寺は海音寺氏、同二十四行目密貿易は密貿易の誤植。

我が道を行く

六十五年 (四三)

西郷 天風



この宴会は松竹キネマ囑託の一琵琶師が、東北地方二ヶ所の特約館に於て半歳に亘る琵琶出演の結果、驚異的好成績をあげたその労をねぎらう為の催しで、松竹の演劇には無関係の筈なのに、歌舞伎の名優や、それにまつわる柳橋の名妓多数が宴席を賑わすなど夢想だに思わなかっただけに、最初は会場を間違えたかとも思ったが、太田益茂氏や多良寛氏を初め松竹キネマ営業部の面々がニコニコ顔を迎えて呉れ、安心して案内の席に着けば、姓名は忘れたが元は彫金家で、鶴蔵丈の義弟に当たるキネマ社員から親しく紹介され、それ以来同僚とは別懇の間柄となった。

の絶ゆることのない奇病にかゝり、あらゆる名医の治療も一向にその効果なく、遂に神仏に頼るばかり道なしと敬神念仏の巡礼に精進を続ける様は、見るも痛々しい有様だった。或日京都のさる旅館に投宿し、旅装をといてやれやれと落ついてみると、向いの座敷に一人のお武家が女中相手に夕餉を楽しんでおるので、しきりに、もようす放屁を押えようと努力すればする程、間隔は延びるが音はかえって大きくなるばかり、そうこうする内、異様な音に気付いたお武家は、女中をつかわし注意をうながしたが少しもきゝめがないので、遂に腹にすえかねたお武家は荒々しくその座敷に踏込めば豪商は平身低頭、ひたすら赦免を乞うが、その間も放屁は続けておる。いよいよ激昂したお武家は、平ぐもの如くひれ伏す彼の背中を力に任せて踏つければ、途端に障子も破れんばかりの大音響を最後に四辺は人なきが如く静まりかえってしまった。さすがの業病も、お武家に踏付けられてひとたまりもなく、屁の種まで吹飛ばしてしまった。喜んだのは彼の豪商で、神仏よりも有難いのはこのお武家様、とばかり、直ちに酒宴を張って、呑めや歌えの大騒動で幕。

辻司郎氏の姿も見られたが、或時この舞台上に立って、映画説明ならぬ一場の漫談を披露した。御承知の通り、日本人形のおかっぱ姿で、その声も幼ない女兒のようなキキキ声で、近頃男子であり乍ら頭髪を長く肩にかぶせて性別の判らぬ青年が現れた。なぞと自分の頭をよそに奇声をあげて興を添えたが、その話振りが後に漫談と云う話術のはじまりだったろう。

その後鶴蔵丈はお家芸である三番叟三十数番の研究を思い立ち、その発表機関としてカラス会と銘打った組織の下に、有楽座に於て三番叟ばかりを五番位ずつ発表すること三回に及んだが、遂に病を得て鬼籍に入ってしまったのは惜しむても余りある次第で、葬儀は小石川伝通院下の寺院で行われたが、その折僧坊の奥で警若湯を汲み乍ら時間待ちしていた私は、女人禁制の奥にはこんな珍しい盃があるのかと驚いたことがあった。

それはさておき、フランス展の爲め、急遽帰京した私は上野の美術館に通う事数回、茲に初めて絵画芸術なるものは、自己の思うまゝを表現するに何等ためるべきでないことを知った、それ迄は各流大家の門に入り、制規の研鑽をつみ師匠の引立を必要とするもので、自己流では世に入れられぬものと観念していたのを、この展覧会によって、少なくとも洋画に於ては自由であることを知り、早速洋画の材料を揃えて勇躍研修に邁進することになった。

当時私の住居、小石川久堅町周辺には以前から水彩画の仲間が四・五名あり、その中には筑前琵琶をよくし、現在創元会(洋画壇)の会員として活躍中の小林重三氏や、先年物故された日展の常連渡辺義一氏など画壇に名を成した友もおるが、私は生活環境に負けた弱者となってしまうた。

併し、回顧すれば画才に於て前二者にさ程劣るものとも思われない、このフランス展のあと、あれは六月か七月頃だったと思うが、当時文部省主催の文展につぐ有名展に、中央美術展と称する中央美術社主催の展覧会が同じ美術館に開かれ、私は初めて描いた油絵「五月雨頃」と題する十五号の作品を、森田三郎の名(これは当時琵琶の芸名森田天風を名乗っていた関係)で出品し入選、第六室に展示されたが、それが前二者より数年前のことだった。

この展覧会には、さる宮殿下の御下賜金があり、それに入選者全員の会費を加えて、本郷三丁目電車交叉点横のレストラン大広間で盛大な親睦会が催されたことは私の終生忘れぬ思い出の一駒である。

寸言 (83)

夕顔 源氏物語の中の女性で光源氏に見染められひそかに一夜を過ごして死に迫りやうとしたその「某の院」とは作者紫式部のイメージでは京の六條河原辺りでは……との説が高い。今の積殺邸か?

若い人たちに

肥後、薩摩、筑前琵琶を遺そう



辻 旭城

二・三年ほど前肥後熊本に旅行した。明治四年ごろ熊本県と鎮西鎮台が置かれて、県の軍事、政治上の中心となったが、明治十年西南の役で、熊本城はその攻守の中心となつて市街は大半焼けてしまった。然し県行政上の中心であると同時に交通、文化経済の中心地であり、また肥後米の独占的集散地でもあることが市街の復興を促し、殊に九州の中央に位するといふ位置的好条件により、福岡に次いで九州第二の都市となった。

数年前、肥後琵琶が我が国の無形文化財に指定されたが、今は殆んど人たちが忘れられている。さもあるう、戦前は盛んであったが、戦後は一部の地を除いて殆んど琵琶を耳にすることもなくなり、特に若い人達は、琵琶その物を見る機会すら無くなっている。かつて肥後琵琶のみか、一時全盛を極めた薩摩、筑前琵琶も、今は新音楽芸能に押されて影が薄くなってきた。特に肥後琵琶は、琵琶その物も市立博物館に行かねば見る事も出来ぬほど姿が消えた。無形文化財指定の要点は、人間国宝等とは

